

令和２年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋中学校

学校の教育目標

- | | |
|-------------|------------------|
| ○考える人になろう | ○心ゆたかな人になろう |
| ○たくましい人になろう | ○みんなのためにつくす人になろう |

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- 1 各教科の年間指導計画と評価計画の充実を図るとともに、適正な教育課程を実施する。
- 2 国語・数学・英語科で少人数、習熟度別指導等、個に応じた指導を充実させる。
- 3 授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進め、基礎基本の確実な定着を図る。
- 4 校内研究、授業観察、個々の教員の教材研究で、毎時間の授業の質を向上させる。
- 5 各種検定の取組やサブリノートの活用を通し、自学自習の意識を向上させ、学習習慣の確立を図る。

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

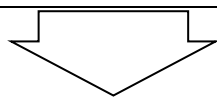
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	・話の話題や方向性、話し合いにおける発言の役割について、自分の意見を持つことに課題がある。 ・文学的文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つことに課題がある。 ・文法・語句に関する知識の定着に課題がある。	・スピーチや話し合いを振り返る機会が少なかった。 ・文学的文章において、内容の読み取りに終始してしまっていた。 ・文法や語句について、練習的な活動とともに、読むことの学習を通じた知識の定着を図る機会が少なかった。
数 学	・図形に関する知識はあるが、新たな事柄を見だし、説明・証明する力が不足している。 ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力が不足している。	・直感的な説明ではなく、数学的な表現を用いて説明する場面や話し合い活動を行う場数が少ない。 ・数学的な表現を用いた問題は関心意欲が低く無解答率が高い。
社 会	・歴史的分野における日本と世界の事象や特色を、比較・関連させながら理解する力が不十分である。 ・地理的分野における世界各地の人々の生活と環境について、気候や地形と結びつけながら多面的・多角的に捉えることを苦手としている。	・歴史的事象を断片的に読み取り、背景や他地域の特色や事象と結び付ける力が定着していない。 ・資料を読み取る視点が単一で、分析・表現する技能が定着していない。
理 科	・科学に関する知識理解が不足している。 ・証明実験など、既習の知識を応用することがあまり得意でない。 ・自然現象について説明するときに、論理立てた説明をすることを苦手としている。	・思考、表現に力を入れるようになった分、知識理解は以前より下がっている。 ・自然現象が起こる条件を自分で設定する実験などが不足していた。 ・実験結果を、人に理解できるように伝える機会が少なかった。
英 語 ＜中学校のみ＞	・単語や熟語の語彙力、文法の理解に大きな差がある。 ・英文を読み、場面や状況に応じた適切な表現を考えて、表現することを不得意とする。 ・質問に対して、自分の答えをまとまりのある２文以上の英文で書くことを苦手としている。	・単語や熟語、文法が定着していない。 ・英文を読み、場面によって既出の文法事項を使いわけること慣れていない。 ・簡単な表現で、２文以上のまとまった英文を正確に書く機会が少ない。

体 育	- 生活・運動習慣等の実態調査の「運動が好き」の項目で、好き傾向の数値が東京都の平均より低い。(都83.9%>本校80.0%) - 体力・運動能力テストで、握力、持久力、ハンドボール投げにおいて東京都の平均より低い。	- 保健体育科の授業以外における、日常的な運動習慣が少ない。 - 巧緻性、操作性を高めるための運動が少ない。
-----	--	---

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	目標「基礎基本を確実に定着させる。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が80%以上となる。」 令和元年度保護者学校評価アンケート 「学校は個に応じた指導を徹底し、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。」 よくあてはまる10.9% あてはまる54.9% 計65.8% 前年度を上回るようにする。(目標80%) 令和元年度生徒学校評価アンケート 「授業の進み方はちょうどよいと思いますか。」 ちょうどよい29.6% まあまあよい48.0% 計77.6% 85%を目指す。 放課後や長期休業中に区中学校講師や学習指導サポーターを活用し、学習力サポートテストの復習プリントや東京ベーシックドリルを活用した補習教室を行う。
②授業改善	目標「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進める。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が90%以上となる。」 令和元年度保護者学校評価アンケート 「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進めているか。」 よくあてはまる30.7% あてはまる57.7% 計88.4% 前年度を上回るようにする。 「学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」 よくあてはまる12.8% あてはまる59.2% 計75.1% 前年度を上回るようにする。(目標80%) 令和元年度生徒学校評価アンケート 「授業規律を守り、落ち着いて授業を受けることができますか。」 よくできた48.1% まあまあできた44.7% 計92.8% 90%以上を継続する。

③教員の指導力	目標「「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を行う。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」 令和元年度保護者学校評価アンケート ・「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を提供しているか。」 よくあてはまる13.2% あてはまる47.7% 計60.9% 前年度を上回るようにする。(目標80%) ・「学校は通知表等を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に評価している。」 よくあてはまる17.6% あてはまる58.1% 計75.7% 前年度を上回るようにする。(目標80%) 令和元年度生徒学校評価アンケート ・「授業の内容を理解し、達成感がありますか。」 よくできた17.3% まあまああった60.5% 計77.8% 85%を目指す。
④家庭との連携	目標「自学・自習の学習習慣が身に付くように指導する。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」 令和元年度保護者学校評価アンケート ・「サプリノートや各種検定の取組で、自学・自習の学習習慣が身に付く指導をしているか。」 よくあてはまる21.0% あてはまる50.2% 計71.2% 前年度を上回るようにする。(目標80%) ・「生活と学習のサプリノート」を活用し、学校と家庭の双方向の情報交換を通して、学習・生活状況の把握を行い、指導に生かしているか。」 よくあてはまる27.1% あてはまる47.4% 計74.4% 前年度を上回るようにする。(目標80%) 令和元年度生徒学校評価アンケート ・「サプリノートを活用し、毎日の復習など家庭学習の習慣を身に付けることができますか。」 しっかり身に付いている22.4% 身に付いている36.9% 計59.3% 前年度を上回るようにする。(目標80%)

⑤体力向上	目標「運動意欲を高め、生徒の生活全般で運動習慣を身につけられる指導をする。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」 令和元年度保護者学校評価アンケート ・「学校は生徒の健康・体力の増進に努めている。」 よくあてはまる21.7%　あてはまる61.0%　計82.8% 前年度を上回るようにする。(目標90%) ・「行事、授業、昼休み等で体育的な活動を充実させ、生徒の運動意欲を高めることができたか。」 よくあてはまる21.1%　あてはまる47.9%　計69.1% 前年度を上回るようにする。(目標80%) 令和元年度生徒学校評価アンケート ・「昼休みに校庭や体育館、屋上で、身体を動かす機会をもつことができましたか。」 よくできた24.7%　まあまあできた30.8%　計55.5% 前年度を上回るようにする。(目標80%) 体力テストにおける「持久走」について、東京都平均とほぼ等しくなるようにする。
-------	---



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	各教科で指導と評価の一体化を目指した指導計画・評価計画を作成する。 その中で ①オリンピック・パラリンピック教育 ②表現力の育成 ③他教科等 に関わりのある学習内容を明確にする。 夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、生徒個々の学力に応じた指導ができるように計画、準備を行い、新学期から実践する。
取組Ⅱ	生徒が授業で身に付けた表現力を活用する場面を授業及び行事や学年・学級の活動に意図的に設定し、言語活動の充実を図る。
取組Ⅲ	生徒全員が英語、漢字、数学検定へ挑戦する場を設定し、受検者全員が合格できるように、検定前に放課後などを利用した補習を行う。

②授業改善	
取組Ⅰ	①交流が活発に行われる授業 ②「できた」「分かった」を実感させる授業 ③社会や生活に広がる授業を目指す。
取組Ⅱ	「主体的に取り組み、考えを深め、表現する生徒の育成～問題解決型・言語活動の充実を通して～」を研究主題に校内研究を行う。特にSDGsの教育視点からの教科横断的な授業の実践を行う。
取組Ⅲ	夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、各教科で授業の振り返りを行い、新学期からわかりやすく工夫された授業となるように改善する。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る。
取組Ⅱ	生徒に信頼される授業力を身につけるために、ICT機器を活用し、生徒自身が興味関心をもつ教材・題材の開発、社会や生活に繋がり、広がる授業を実践する。
取組Ⅲ	生徒の反応や学習状況に応じながら計画に沿って授業を実践する力を高めていく。（発問や指示・板書の工夫、教材・教具の活用等） 夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、各教科で授業の振り返りを行い、新学期から「分かった」「できた」と実感できる授業となるように改善する。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	「生活と学習のサブノート」を活用し、各生徒の家庭学習の状況を把握するとともに、保護者と連携を図り、家庭学習の習慣化を目指させ、自学・自習の能力を育成する。毎日の記入と提出を生徒に促し、三者面談でサブノートの記録などをもとに家庭学習について話をし、定着を促す。
取組Ⅱ	携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用について家庭でルールを決め、食事や睡眠時間など基本的な生活習慣を確立させる。
取組Ⅲ	定期考査に向けた学習計画表、考査後に家庭向けに配布する学習の記録をもとに、三者面談などの機会を利用し、家庭と連携した自学・自習の指導を行う。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	生徒が体を動かしたくなるような企画を立て、楽しみながら体を動かせるようにする。 ①ダブルダッチ体験（筋力、握力、平衡性など） ②ボルダリング体験（敏捷性、巧緻性など）
取組Ⅱ	毎時間の授業でコーディネーショントレーニングを取り入れる。学校再開後の生徒の実態を把握し、制限された行動の中でも体力テストをすべて実施し、体力向上に取り組んでいる。
取組Ⅲ	体育の授業に外部講師を招聘し、専門的な指導を受けることで、生徒の学習意欲向上や安全に配慮した指導を行う。